

令和元年度版

環 境 白 書

沖 縄 県

環境白書の発行に当たって

私たちの暮らす沖縄は、豊かな生態系を育むサンゴ礁が広がる海域に散在する、大小 160 の島々からなり、大陸から分岐した地史の中で、生き物は独自の進化を遂げ、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等多くの固有種を含む希少な動植物が生息しています。

豊かな自然環境に恵まれる一方で、島嶼性に基づく地理的条件から環境負荷に脆弱であることや、広大な米軍基地の存在が、環境に様々な影響を与えているという特徴があります。

このため、沖縄は、各種開発や経済活動等の進展による自然環境の喪失や航空機騒音等の基地から派生する問題、廃棄物の適正処理やマイクロプラスチックを含む海岸漂着物への対応など、様々な課題に直面しています。これらの現状を踏まえつつ良好な生活環境を維持し世界に誇る豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐことは、私たちの責務であり、環境は有限であることを理解し、負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会を創りあげていかなければなりません。

このような中、県では本県の環境や、社会経済等の状況の変化に対応するため、「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」の改定を踏まえ「第 2 次沖縄県環境基本計画」の見直しを行い、各種施策を展開しているところであります。

また、「沖縄 21 世紀ビジョン」に掲げる将来像の実現に向け、沖縄らしい SDGs を積極的に推進することで、新たな時代に対応した持続可能な沖縄の発展に取り組むこととしております。

さらに、昨年 12 月に開催した「第 43 回 全国育樹祭」を契機として、緑化活動及び森林づくりを推進し、花と緑であふれる魅力的な県土の形成を目指すとともに、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の確実な世界自然遺産への登録に向け国や関係機関との連携を強化し、今年度新たに制定した「沖縄県野生動植物保護条例」に基づく希少種の保護や外来種対策に取り組むなど、遺産価値の維持と適正な利用の両立に向け各種施策を積極的に展開してまいります。

本書は、主に平成 30 年度の本県における環境の現状と実施した施策についてまとめたものです。皆様の環境への関心と理解をより深め、環境保全活動の一助となれば幸いです。

令和 2 年 3 月

沖縄県知事 玉 城 デ ニ ー

